

平成21年度

第9回「地域科学技術振興研究会」

開催日 : 平成22年3月15日(月)13:00~16:30

場 所 : 北海道立道民活動センター 8階 特別会議室

主催協賛 : 主催 財団法人 全日本地域研究交流協会
協賛 財団法人 新技術振興渡辺記念会

議 題 : 「ノベーションの加速に向けた統合型情報基盤(プラットフォーム)
形成に関する調査研究」報告・討論会

参加者数 : 23名

[プログラム]

1、挨拶 13:00~

財団法人 全日本地域研究交流協会 理事長 沖村 憲樹



2、協賛挨拶 13:07~

財団法人 新技術振興渡辺記念会 理事 児玉 柳太郎



3、講演 13:20~

「チャンス発見「楽」 イノベーションに向けてー」

東京大学大学院 工学系研究科 教授 大澤 幸生



4、調査研究報告 14:20～

「イノベーションの加速に向けた統合型情報基盤の
形成に関する調査研究」

財団法人 全日本地域研究交流協会 常務理事 中崎 正好
主任研究員 鈴木 久美子



(休憩 15:30～15:35)

5、調査をふまえて・提言 15:35～

「地域の科学・技術振興への提言」

財団法人 全日本地域研究交流協会 特別研究員

(九州大学名誉教授)

齋藤 省吾

6、質疑・討論 15:50～16:50

参加者全員



今後の展開に向けて

- ・札幌地域の成功例・失敗例の原因とその詳細が分れば良いが
- ・後ろ向きの人ばかりでないと思うので、人材の掘り起こしを
- ・今後は、地域から声を上げていきたい
- ・本日の研究報告会を踏まえて、今後如何にこの成果を、他地域に展開するか、対応を、JAREC と共にかんがえていきたい
- ・企業の本気度(研究展開に必要な経費の負担行為が望まれる)
- ・プラットフォームの地域版から、全国版への方策思索を
- ・今後の展開に当って、関連情報が収集できるか、十分な努力を期待したい
- ・地域は科学・技術だけでは動かない、消費者に良いものでないと、そのためのシステム作りを併行して進化させたい
- ・地域への予算手当ては、プラットフォームタスクフォースが望まれる、JST のメッキによる方策も検討の余地有や
- ・新年度は、新規地域調査研究とプラットフォーム形成による、中小企業のイノベーション活動サポートシステム構築に注力すべきとの要請があった